

MT-600は電話用のモジュラー2分岐コネクタの内部にUHF発信機を組み込んだ電話用発信機です。電話回線を通る電気を電源として利用するため電池などは不要です。

また分岐コネクタとして機能はそのままであり、通話に雑音が入るなどの支障もありません。

接続は壁のモジュラージャックでも、電話機側でもOKですが、違和感の少ないのは壁側です。壁に付いているモジュラーコネクタを外し(コネクタのポッチを押し込めば外れます)、MT-600をセットし、モジュラーケーブルをMT-600にはめこめばOKです。ただし、これは従来のアナログ回線のままならという条件がつきます。

## ADSL回線の場合

ADSL回線の場合は、電話線がスプリッターで電話に向かう線(分岐電話線)とPC(分岐PC線)に向かう線に分けられます。この**分岐電話線**(右図の太線)にMT-600をセットします。スプリッターにMT-600をセットするのが違和感がありません。

分岐PC線側に付けるとMT-600が機能しない、あるいはPCネット接続に支障が出ます。**スプリッター以前に付けるのも不可**です。音に雑音が混じる、ネット接続に支障が出ます。

スプリッター部で使われているモジュラーコネクタはRJ-11と呼ばれている規格でMT-600も同じため、間違えて接続してしまう可能性があるので注意してください。

スプリッター部にはPHONEとMODEMの記載がありますが、PHONEのRJ-11モジュラーコネクタに接続されているのが分岐電話線、MODEMのコネクタ接続されているのが分岐PC線です。

## 光ファイバーの場合

光ファイバー回線の場合は光電話ルータで、電話に向かう線(分岐電話線)、PCに向かう線(分岐PC線)に分けられます。分岐電話線には「電話機1・電話機2」、



130214E

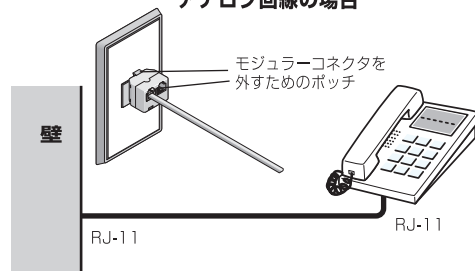
### MT-600のスペック

●外寸/27×21(25)×21(37)mm●重量/11g●電源/不要●送信チャンネル/UHF帯A・B・Cの3種類●製品構成/本体

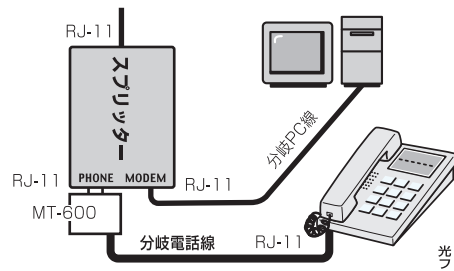
分岐PC線には「LAN」の表記があるはずですが。光ファイバー回線でTVの配信を受けている場合はテレビに向かう線(分岐TV線)もあります。

ADSLの場合と同様に、MT-600を付けることができるのは**分岐電話線**です。光電話ルータの分岐電話線のモジュラージャックにMT-600をセットするのが自然です。分岐電話線にはRJ-11、分岐PC線にはRJ-45のモジュラーコネクタが用いられており、MT-600はRJ-45には付きませんので間違えることはありません。

## アナログ回線の場合



## ADSL回線の場合



## 光ファイバー回線の場合

